

石川県能美市・恩納村交流事業

能美市と恩納村の交流事業が9月2日から9月5日の日程で実施されました。

9月2日には村役場で歓迎式典、4日にはうんな中学校でレクレーションや給食交流、記念品交換を行い交流を深めました。能美市からうんな中学校へ能美市の伝統工芸品である九谷焼のウルトラマンも贈呈され、うんな中の生徒も喜んでいました。

両市村生徒の対面交流の前にオンラインでの交流も実施されるなど、新しい形の交流も実施されています。

この交流事業は、令和5年7月に石川県に立地する北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)と恩納村にある沖縄科学技術大学院大学(OIST)が学術協力に関する基本協定を締結したのをきっかけに交流促進の機運が高まり、令和6年2月19日に能美市と恩納村で教育交流パートナー協定を締結し、実施することになりました。



少年の主張大会

9月2日、中頭教育事務所会議室で第39回中頭地区少年の主張大会(主催:中頭地区青少年育成市町村公民会議)が開催されました。

恩納村代表として、うんな中学校3年の金城佑音^{きんじょう ゆのん}さんが出場し、演題の「意思を買いた先に見えるもの」を多くの観客の前で堂々と発表しました。



うんな中学校でプログラミングの出前授業

9月18日～20日、1年生を対象に、(株)NTTデータフィナンシャルテクノロジーの社員12名によるプログラミングの出前授業を実施しました。

授業では、プログラミングとは何かとの座学から始まり、生徒たちは、メイクコードと呼ばれるプログラミングソフトを使い、カラフルなブロックをつなげていき、まるでブロック遊びをしているような感覚で、micro:bitという教育用小型コンピューターボードを動かしたりしていました。

前年度と今年度に企業版ふるさと納税の制度を活用し、恩納村の教育への予算に寄付をいただいています。また、今回の出前授業も企業や社員の社会貢献活動の一環から無償で実施しています。

